



昭和30年代初頭の岩城小・中学校
岩城村誌編集委員会『岩城村誌 下巻 現代編』岩城村 昭和61年より

ふるさと 上島学への招待 ④



上島町教育委員会
有馬 啓介

学び舎の歌

生まれ育った土地を「ふるさと」とするのであれば、私にとっての「ふるさと」は、山口県の瀬戸内海に面した町、宇部になります。この地で慣れ親しんだ風景は、しばしば小学校の校歌と共にまぶたに浮かびます。高台にある学び舎から見渡す「ふるさと」の山光水色は、母校の校歌に歌い上げられています。私の「ふるさと」の海は、瀬戸内海です。

上島町内の学校の現在の校歌は、昭和10年代から50年代にかけて作られました。校歌には、地域の自然景観や歴史、子どもたちが豊かで健やかに生きるための徳目がちりばめられています。校歌で歌われている自然景観について、少しだけお話ししましょう。

町内の学校の校歌には、必ず海が登場します。「静けき海、澄んで流れる

青い汐、金の波」等と表現された瀬戸内海です。弓削小学校の校歌では、「静けき」という表現が2度使われています。また、魚島小学校と中学校では、「金（の）波」と歌われています。弓削小学校と中学校の校歌では、瀬戸内海の代表的な景観であった「白砂青松」が歌われています。

「立石の そびえる岩」（生名小学校）、「山は積善 岩城富士」（岩城小学校）、「雲間に遠く 石鎚の 輝く峰」（弓削中学校）等と表現された景観は、今も変わりません。岩城小学校や中学校では、「明るい村の かおる土」、「けがれなき 清らなる土」といった歌詞が見られます。

豊かな自然は、感性豊かな子どもの大きな規範です。夏は、自然の中で子どもが大きく成長する季節です。

しゃきしゃきの「さつま」

店に買物に来たおばちゃんが「畑のきゅうりも出来だしたし、そろそろさつま作ろうかね」と言いました。最初聞いたときは、さつま揚げみたいなものだと思いますが、想像とは違う料理でした。頂いた「さつま」がとても美味しかったので、「さつま」の正体を聞くと、焼いた白身魚をすり鉢ですり、味噌を加え、薄く輪切りにしたきゅうりを加えたものだそうで、頂いた「さつま」には、マッチ棒サイズに切られたこんにゃくも入っていました。味噌味ときゅうりのしゃきしゃき感がごはんによく合います。白身魚なら何でもいいとのことですが、鱗を付けて焼くことで、身がふわっと仕上がり美味しくなるそうです。

さて魚島では、定置網の網上や、た

こ壺漁の準備で島内がいつもより忙しそうに見えます。また盆に帰省される方のために、色んな準備をされています。お正月よりたくさんの方が帰省されるそうで、とても楽しみです。ぜひ商店にも来て頂きたいと思います。

また盆踊りや、テンテコ踊りなどの行事もあります。

梅雨も明け、暑くなると食欲が無くなりますが、そんな時は是非「さつま」を作って夏バテしないようお気をつけ下さい。

今月の写真は店の前に巣を作ったツバメです。兄弟達が巣立つ中一人寂しそうです。翌日には無事巣立ちました。



島おこし 協力隊 活動報告



島おこし協力隊
吉田 浩士